

旬の移り変わりを五感で感じて

ひと雨ごとに寒さが増し、秋から冬へと季節が移り変わる事を感じます。

11月は、秋の味覚がたくさん給食に登場しました。乳児のこどもたちの目の前で、大根や人参を切ると、“かたいで〜”“中、たねある〜？”という声が聞こえてきました。そして、“あれ？たねないね。”と不思議そうに見つめる姿がありました。ピーマンやかぼちゃなど、夏野菜の中に種がたくさんあることを見てきた経験が、こういった言葉につながったと感じました。実際に見たり触れたりする中で、夏野菜との違いを知ったり、かたいことがわかっていくこどもたち。五感でさまざまなことを発見し、心で感じながら旬の移り変わりを感じていくことを、これからも大切にしていきたいと思えます。冬野菜は、どんな発見があるかな、今から楽しみです。

12月13日は…

乳児生活発表会

先日、大きなお肉をスプーンですくい少しずつかじりとって食べるれんげぐみのこどもの姿がありました。まだまだ一口量がわからなかった頃は、大きなお肉も一口で口に入れてしまう姿があります。自分が口の中で処理できる、“おいしく食べられる量”がわかるようになることは、大きな成長です。

このような、食べる場面で見えるさまざまなこどもたちの成長を保護者の皆さまと一緒に喜び合える機会になればと思っています。



12月26日は…

「おもちつき大会」

年間行事予定で21日(土)とお伝えしていましたが、施設上十分な環境を整えることが難しく、例年通り、保育の中で行います。日本の伝統行事であるおもちつき。お正月の鏡餅の準備も兼ねて、こどもたちと楽しみます。4、5歳のこどもたちは、実際に杵をもってつくことも体験できたらと思っています。0.1歳のこどもたちは、窒息の危険もあるので、おもちは食べず、見ることでおもちつきを知る機会になればと思っています。

保護者の方も参加できます。



人とのつながりが食体験を豊かに

昨年度までのいば農園での収穫体験が難しく、今年度はまた新たな関係の中で田んぼや畑での体験をさせていただきました。こどもたちが楽しめるようにと、田んぼの準備や、苗の世話など環境を整備して頂いたおかげで、このような食体験が叶いました。改めて人とのつながりの大切さを感じ感謝の気持ちでいっぱいです。

心もつながる稲のバトン

～5歳児稲刈り体験～

鎌という少し危険な道具を扱う緊張感、そして、稲を刈り落とす感触の心地よさを感じているこどもたちでした。刈った稲はバトンのように友だちに手渡ししながら協力して運び、積み上げていきます。稲がなくなり、地面が見えてくる様子や、山になっていく稲を見ながら、“こんなにいっぱいになってきたな〜”“あともう少しや”と、声を掛け合いながら力を合わせていく姿が印象的でした。田んぼの一角の稲を全て刈り終えた時のこどもたちの達成感は格別でした。

“収穫”という楽しさ、力を合わせる心地よさ、労働の大変さを味わうことができた貴重な機会となりました。

12月には、体験をさせて頂いた志田さん(田んぼの管理者)をお招きし、一緒に新米の給食を囲む予定です。



収穫の喜びが何よりのスパイスになって

～2、3歳児芋ほり体験～

姉妹園の職員の実家の畑で芋ほり体験をさせて頂きました。2、3歳のこどもたちでも簡単に掘れるくらいのかかした柔らかい土の畑でした。そして、土の中から出てくるお芋の大きいこと!!自分で掘って収穫できた喜びで溢れていました。そして、収穫したお芋がお芋ご飯や餃子などさまざまな芋料理に変身しています。作る前には、必ず自分たちでお芋を選びます。“自分たちが掘った”ということが、なによりのスパイスとなり、こどもたちにとって格別な味に仕上がっていますよ。



園内でも豊かな食育体験を

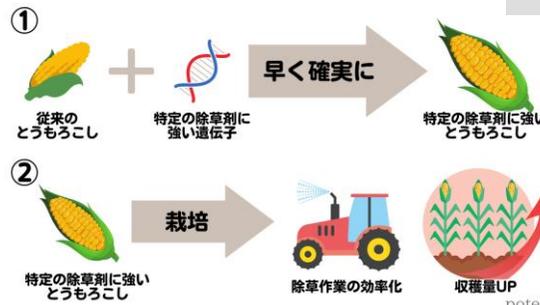
～1歳児芋ほりあそび～

たんぼぐみのこどもたちは、2、3歳のこどもたちが掘ってきたお芋をつかって(埋めて)砂場で芋ほり体験をしました。園外での体験は難しいけれど、こどもたちが収穫の楽しさを遊びの中で味わえるようにと考えました。季節の体験が園内でも叶っていただけるような工夫を、今後も考えていけたらと思っています。



食の安全を考える No.4

遺伝子組み換え食品? ゲノム編集食品?

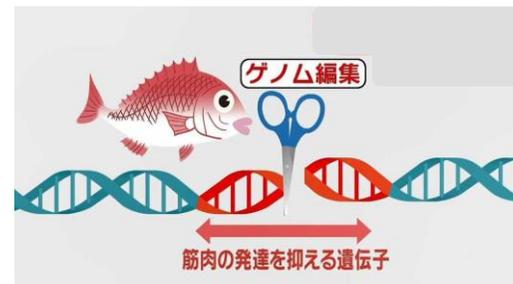


＜遺伝子組み換え食品とは?＞

外から遺伝子を組み込み、特定の害虫や除草剤に強い性質の農作物をつくり、効率よく生産できるようにしたもの。

＜ゲノム編集食品とは?＞

生物の中にある特定の遺伝子を破壊して、性質をかえた食品。今流通しているのは、トマトと、マダイとトラフグ、ヒラメ、とうもろこし。



今日本で急速に開発されているのが、「ゲノム編集食品」です。遺伝子組み換え食品との違いは、

- ① 低コストで生産が可能
- ② 安全審査なく流通が可能
- ③ 食品表示の義務がないこと

遺伝子組み換え食品は、外からの遺伝子を組み込むため、安全審査を受け安全が確認されたものが流通しています。一方もともと生物の中にある遺伝子を壊して編集するゲノム編集食品は、安全性に問題はないとされ、審査がないのです。どちらの食品も、自然界には存在しない人工的につくられたものであり、食べ続けたあとの、こどもや孫の代の安全までは確認されていません。選択の責任は、私たち消費者に任されているようですね。

